

最近アクセルとブレーキの踏み間違
いによると思われる交通事故などが
ニュースに取り上げられている。その
ドライバーの多くが高齢者である。

最近の乗用車はほとんどがオートマ
チックのトランスミッション（AT）
で、クラッチを踏んで手動で変速する
マニュアルトランスミッション（MT）
は少数派である。AT車で特徴的な
はアクセルを踏まなくても低速で車が
進むクリーピング現象があることだ。

駐車場での操作や、渋滞時のノロノロ
運転などこの現象を使って微速前進を
することができ、このような場合も
通常はブレーキペダルをすぐ踏めるよ
うにしておくべきだが、アクセル、ブ
レーキどちらのペダルにも足をかけず
足を引いた状態で運転することがある
とすれば、これは危険である。車を止
めようとして足を延ばし、ブレーキペ
ダルを踏んだつもりがアクセルペダル
に足が行ってしまうと予期せぬ加速が
始まることになる。加速に動転しブ
レーキペダルと思つたアクセルペダル
を更に踏み込むことによる事故もある

のではと思う。
最近の車には技術の発達で衝突防止
や、踏み間違いの急加速を防ぐ機能な
どが搭載されつつある。しかしそれら
に完全に依存するわけにはいかない。
踏み間違いの防止策は正しい姿勢で
運転することである。そうすれば右足
の位置も定まり、アクセルとブレーキ
との足の位置関係が明確になる。運転
マニュアルによれば、右足のかかとは
ブレーキペダルの寄りの床に常時つけ
て、ブレーキとアクセルのペダルはか
かを支点につま先側を動かして操作
するのがよいとのこと。

のではと思う。

最近の車には技術の発達で衝突防止
や、踏み間違いの急加速を防ぐ機能な
どが搭載されつつある。しかしそれら
に完全に依存するわけにはいかない。
踏み間違いの防止策は正しい姿勢で
運転することである。そうすれば右足
の位置も定まり、アクセルとブレーキ
との足の位置関係が明確になる。運転
マニュアルによれば、右足のかかとは
ブレーキペダルの寄りの床に常時つけ
て、ブレーキとアクセルのペダルはか
かを支点につま先側を動かして操作
するのがよいとのこと。

もう一つ、大方の賛同は得られない
だろうが、ペダルの踏み間違い防止に
良い手段がある。それはAT車をやめ
てMT車に変えることである。筆者は
車の運転は好きなことのひとつで、現在
もMT車に乗っている。

MT車だと発進・停止時は左足でク
ラッチを踏むので、左足の位置が定め
られ、それを基準に右足を動かすから
ブレーキとアクセルのペダル位置は間
違えにくくなる。又急ブレーキのつも
りでアクセルペダルを踏みこんでもク
ラッチ操作が伴うから急加速はしない。
現在高齢者と呼ばれている我々世代
はほとんどがMT車での運転経験を
持っている。従つて少し慣れれば違和
感なくMT車に乗れるだろう。

筆者はクラッチを踏んでギアを切り
替えることが億劫になつたら運転はや
めようと思つている。AT車は運転が
楽だから、高齢者も運転をやめるきつ
かけをつかみにくい。
私の母は一人暮らしで、80歳過ぎて
も車を運転し、高速で数時間かかる親
戚の家などへも行っていた。その後や
はり心配になつて、母の運転に同乗し
て路上試験？ をしてみた。知つてい
る道路での運転はよいのだが初めての
場所での状況確認にやや時間がかかり、
駐車場などで、出口を探すのに手間取
るようなところがあつた。以前に比べ
て瞬間的な判断力が落ちてきているよう
に思えた。きれいな好きだつたにも関わら
ず部屋の掃除も行き届かず、日中はん
やりしていることも多くなつた。結局
何度か車に同乗し、母を説得して免許
を返納してもらつた。この時87歳。

車の運転をしなくなつて、買い物は
近所へ歩いていくだけになり、いつ
い出来合いのお弁当を買つて食べるよ
うになつた。栄養の偏りと運動不足で
血圧も上がった。結局、認知症の傾向
があると診断され、近くのグループ
ホームにお世話になつている。現在94
歳だが、ホームの健康管理がよくて、
いまは元気にしている。

母が車の運転をしなくなつて自由にな
動けなくなつた。そのせいで活力が下
がって認知症症状が出たのかも知れな
いという子としての負い目がないわけ
ではない。しかしいずれは運転ができ
なくなる。今は交通事故を起こさぬう
ちに免許証を返納してもらつてつくづ
くよかつたと思つている。

65歳以上で、免許証を返納すると「運
転経歴証明書」という免許証によく似
たカードを受け取ることが出来る。身
分証明書の代わりに使え、公共交通機
関の割引などいくつの特典がある。
若いころから運転に自信のある人ほ
ど、自分の運転技量の低下を意識して
おくことが大事だろう。加齢による運
転能力の低下などは個人差が大きく、
何歳でという基準は作れない。私はま
だまだ大丈夫と思うところが問題なの
だ。事故を起こした高齢者ドライバー
は、小さな接触事故などを複数回起こ
しているケースが多いらしい。家族の
心配をよそに運転を続けた結果、など
という報道もあつた。都会であれば公
共交通機関も整備されているし、コン
ビニの数も多い。しかし母の居住地で
は、やはり車がないと不便ではあつた。
車をあきらめるのはそう簡単ではない
が、人生の完結時期に他人を不幸にし
ることのないよう自戒していきたい。
大先輩の読者の皆さんで、運転をやめ
た方は、どのように決心してきたので
しょうか。

65歳以上で、免許証を返納すると「運
転経歴証明書」という免許証によく似
たカードを受け取ることが出来る。身
分証明書の代わりに使え、公共交通機
関の割引などいくつの特典がある。
若いころから運転に自信のある人ほ
ど、自分の運転技量の低下を意識して
おくことが大事だろう。加齢による運
転能力の低下などは個人差が大きく、
何歳でという基準は作れない。私はま
だまだ大丈夫と思うところが問題なの
だ。事故を起こした高齢者ドライバー
は、小さな接触事故などを複数回起こ
しているケースが多いらしい。家族の
心配をよそに運転を続けた結果、など
という報道もあつた。都会であれば公
共交通機関も整備されているし、コン
ビニの数も多い。しかし母の居住地で
は、やはり車がないと不便ではあつた。
車をあきらめるのはそう簡単ではない
が、人生の完結時期に他人を不幸にし
ることのないよう自戒していきたい。
大先輩の読者の皆さんで、運転をやめ
た方は、どのように決心してきたので
しょうか。